

論文審査の要旨

報告番号	㊦・乙 第 3039 号	氏名	中林 誠
論文審査担当者	主査 中牧 剛 副査 角田 卓也 副査 長塚 正晃		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>悪性腫瘍は腫瘍の増大に伴って染色体不安定性を生じ、それが腫瘍の悪性度と関連する。我々は計 100 人の婦人科悪性腫瘍患者を対象に術前に末梢血を採取し、血漿中 cell-free DNA を Massively Parallel Sequencing(MPS)法で解析することで、無侵襲的に腫瘍に由来すると推定される Copy number alteration(CNA)の検出を行い、その結果と患者予後との関連性について検討した。DNA 解析結果は出生前検査で用いる胎児染色体数的異常の検出に用いる解析アルゴリズムを利用し、10Mb 以上の CNA を認めた場合に陽性と判定した。</p> <p>卵巣癌 36 例、子宮体癌 53 例、子宮頸癌 11 例（進行癌症例はなし）を対象に検討を行い、全癌腫合計および卵巣癌、子宮体癌において病期分類Ⅲ期以上の進行癌で CNA 検出率は有意に高く、また、進行癌では初期癌と比較して卵巣癌および子宮体癌において CNA 検出例が有意に高かった。さらに、全癌腫合計および卵巣癌、子宮体癌、子宮頸癌において無増悪生存期間および全生存期間は CNA 検出例で非検出例に比較して有意に短いことを確認した。</p> <p>以上の成果は、婦人科悪性腫瘍患者血漿中 cell-free DNA を用いた腫瘍由来 CNA の検出が、患者の術前の予後予測マーカーとして利用可能なことを示すものであり、学術的に価値があり、学位授与に値すると判定した。</p> <p>論文題名 : Massively parallel sequencing of cell-free DNA in plasma for detecting gynaecological tumour-associated copy number alteration (婦人科腫瘍患者血漿中 cell-free DNA における MPS 法でのコピー数変化の検出)</p> <p>掲載雑誌 : Scientific Reports Article number : 11205 2018 年 掲載</p>			

(主査が記載、500 字以内)